

い

編集発行：池田市議会
住所：大阪府
池田市城南
1丁目1番1号
郵便番号：563-8666
TEL：072-752-1111
FAX：072-753-5414
[http://www.city.ikeda.
osaka.jp/](http://www.city.ikeda.osaka.jp/)

いけだ
No.141
だ

いけだ市議会だより

平成27年(2015年)1月1日



五月山動物園にて(羊)

新年のごあいさつ	2
議長・副議長、各会派	
委員会レポート	4
平成25年度 各会計決算審査	
やまばと	6

いけだ市議会だよりは再生紙を使用しています。



謹賀新年



副議長
多田隆一



議長
細井馨



新年あけましておめでとございます。
市民の皆様には、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年8月に広島市で発生した集中豪雨に伴う大規模な土砂災害や9月の御嶽山噴火で多数の死傷者を出し、本市でも8月と9月の台風や集中豪雨によって家屋の床上・床下浸水の被害が発生するなど、全国で自然災害が多発した1年でした。改めて、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。

さて、経済状況に目を向けてみますと、政府の財政政策が景気を下支えしてきましたが、一方で消費税増税の影響で2四半期連続のマイナス成長となるなど、日本経済の先行きは不透明な状況にあります。

本市の財政状況につきましては、平成25年度の一般会計決算は13年連続の黒字決算でしたが、市税等の自主財源は前年度に比べ大幅に減少しており、財政調整基金の取り崩しによって黒字を維持しています。依然として厳しい財政状況に変わりはなく、さらなる行財政改革が求められています。

私も市議会といたしましても、昨年6月の定例会において今年の統一地方選挙から議員定数を22名に削減する議員提出議案を可決するなど、議会改革に努めてきました。

本年4月は私たち議員の改選を迎えますが、市議会としては今後も常に市民の皆様の側に軸足を置き、さらなる安全・安心なまちの構築に向け、議決機関としての権能を最大限に発揮していきたいと考えております。

市民の皆様におかれましては、市並びに市議会に対し、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、本年も皆様にとりまして幸多い年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶いたします。

まちの見張り番議員団

皆様には安全・安心な新年をお迎えのことと存じます。4年前、行財政改革や生活向上をお約束し、その実現に向け議会活動を続け、活動報告紙や市政報告会などで情報を届けて参りました。私たちは任期終盤も諸課題の解決に全力投入致します。皆様のご健勝を祈り、一層のご支援をお願い致します。



中西 昭夫



安黒 善雄



山口 勝平

自民同友会議員団

新年あけまして

おめでとございます。

市民の皆様には輝かしい新年をご家族お揃いでお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、この3年間において、公民館の建て替え、学校の耐震補強工事、子どもの通院医療費無料の拡充、五月山動物園のリニューアルなど様々な事業を展開してきました。今年も、市民ニーズや時代に即応した施策、災害に強いまち池田を目指して、初心を忘れず頑張ります。今後も変わらぬご支援・ご指導をお願い申し上げます。



秦 寛房実



細井 馨



木下 克重



浜地慎一郎



小林 義典



民社・友愛議員団

輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。
少子高齢化が進む中、厳しい地方の時代を迎え、更なる行政サービスの効率化にむけて、市民の皆様が多様な生き方や人生経験を活かすため、多くの声を反映させた施策を推進します。本年もよろしくお願いいたします。



辻 隆児



内藤 勝



前田 敏

市民クラブ議員団

新年あけましておめでとうございます。
人口が減少し、少子超高齢社会を迎え、経済が縮小していく中で、一人ひとりの市民が安全で安心な幸せ多い暮らしを続けていくには、政治のリーダーシップが欠かせないと実感しております。
今年は改選の年。私たちは安定した市政運営に向けて、皆さまに安心していただけるよう頑張りますので、よろしく願い致します。



渡邊 千芳



松本 眞



川西 二郎



山田 正司

議員の年賀状・暑中見舞い・寄付行為は、法律で禁止されています。また、祝電・弔電についても、申し合わせにより自粛しています。市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

日本共産党議員団

新年あけましておめでとうございます。
今年は一斉地方選挙の年、消費税増税・原発再稼働許さず、福祉・暮らし最優先の市政をめざし、皆さんと力あわせてがんばる決意です。
どうか本年もよろしく願い申し上げます。



藤原美知子



難波 進



山元 建

公明党議員団

新年あけましておめでとうございます。
庶民の中から誕生した公明党は、「福祉・教育・環境・平和」などの分野で実績と信頼を重ねて、「結党50年」から「次の50年」へと出発しました。
これからも「生命・生活・生存」を最大に尊重する人間主義を政治理念とし「大衆とともに」の立派な精神を貫き、全力で働いて参りますので、よろしくお願い致します。



木ノ平恵子



吉本 光夫



多田 隆一



馬坂 哲平

委員会レポート



平成25年度各会計決算審査
 9月定例会で常任委員会に審査付託した平成25年度の各会計決算について、議会閉会中に各委員会を開催し、審査しました。
 12月2日の本会議で、各委員長が審査の結果報告を行い、それぞれ委員長報告通り認定しました。
 各委員会での審査の主な内容は、次のとおりです。

総務委員会

10月29日
開催

「落語のまち」としての今後の戦略は

〈一般会計〉

問 本市は「落語のまち」を標榜し、落語みゅーじあむを核として社会人落語日本一決定戦や落語パルなど様々な事業展開が評価されていると考えるが、本決算を踏まえ今後の戦略について問う。

行政と協働できる体制作りを構築

答 指摘の落語みゅーじあむは指定管理者によって管理運営されているが、関連事業の企画立案は実質職員1人で行っており、上方落語協会等関係団体との繋がりなど過去からの経緯を含め、後継者育成については苦慮しているところである。

今後は、落語パルなどを手掛けてきた人物等で後継となる団体を組織して行政と協働できる体制作りを構築し、更なる活性化につなげていきたい。

葬祭場使用料の値上げが必要では

〈一般会計〉

問 本市の葬祭場は年間約5千5百万円の指定管理料を支出し管理運営を委託しているが、市営葬儀執行率が50%を切る現状で、税の公平執行の観点からも斎場使用料や火葬料等を若干値上げする必要があるのではないか。

許す限り現状を維持

答 市内全体の葬儀件数と市営葬儀の件数が増加しているが、葬祭場を利用した葬儀は1日2件が限度であり、3件以上となった場合は民間葬儀となる。

それにより、全体の葬儀件数に占める市営葬儀の割合が減少し、執行率の低下につながったものである。

また、斎場使用料や火葬料等は平成25年7月に値上げしたばかりであり、現在の料金体系が市民に理解を得ていると考えているため、財政状況等が許す限り現状のまま推移していきたい。

特に火葬料については、近隣各市ともに概ね同額であり、本市だけが突出した料金にすることは困難であると考えている。

文教病院委員会

10月27日
開催

入院・外来収益が増加している理由は

〈病院事業会計〉

問 本決算を昨年度と比較すると、延べ患者数が減少しているにもかかわらず、入院・外来収益が増加しているが、その原因について問う。

診療報酬点数の高い手術件数と救急患者数の増加が原因

答 入院・外来収益の増加については、手術件数全体の増加並びに人工関節置換術やペースメーカー移植術など診療報酬点数の高い手術件数の増加に加え、救急患者数も1割ほど伸びたため、患者平均の単価が押し上げられたことが大きな原因である。





中小学校の図書の実施は

〈一般会計〉

問 本市では、中小学校の図書費が前年度に比べて10%カットされている。

現在、子どもの読書離れが危惧されているが、その対策として一定の蔵書を確保し、学校図書を魅力あるものにしていく必要があると考えるが、蔵書の充実は図られているのか見解を問う。

寄付金や本の寄贈も寄与し 充実している

答 本市では、教育の充実を指定した多額な寄付や、図書の寄贈もあり、学校図書の充実が図られている。

今後は、寄付金や本の寄贈に依存するばかりでなく、全体的な予算の配分も考慮して、蔵書の確保に努めたい。

厚生委員会

10月21日
開催

介護保険料の今後の見通しは

〈介護保険事業特別会計〉

問 第5期池田市介護保険事業計画においては5千円以下に抑えられていた介護保険料が、第6期事業計画では全国的に大幅な引き上げの可能性があると聞いている。

介護保険料の抑制に運用できるのは介護給付費準備基金のみと思われるが、本基金と介護保険料の今後の見通しについて見解を問う。

被保険者の負担を考慮し、 国庫負担金等の状況に注視

答 介護給付費準備基金は介護保険料の軽減のために投入できる唯一の財源で、毎年剰余金が生ずれば積み立てているが、第6期池田市介護保険事業計画における保険料の引き上げについては、現時点で把握できていない。

しかし、この先厳しい事業運営も推測されるため、第6期池田市介護保険事業計画策定委員会においては、安定した運営を図るため、介護給付費準備基金を全額投入しなければならぬ事態の予測を立てており、被保険者の負担を考慮

し、国庫の負担金や調整交付金の状況等に注視しているところである。

保険料軽減措置の廃止 本市への影響と今後の軽減策は

〈後期高齢者医療事業特別会計〉

問 後期高齢者医療事業については、平成28年度から段階的に保険料の9割、8・5割の軽減措置を廃止するという報道があったが、本決算では、被保険者のうち約半数が保険料軽減の対象となっている。

本市における被保険者への影響と今後の軽減策について見解を問う。

今後の審議を注視 影響を少なくするよう要望

答 保険料の軽減措置の廃止については、厚生労働省社会保障審議会の医療保険部会からの提案であり、審議中の案件である。

現在の9割、8・5割軽減措置については7割軽減の扱いになる内容であり、本市においても大きな影響を受けると認識している。

今後の審議を注視し、被保険者への影響を極力少なくするために、必要であれば大阪府市長会等を通じて要望を行っていく。

今度の保育所民営化の方針は

〈一般会計〉

問 保育所運営者選考委員会の委員報酬が予算化され、緑丘保育所の民営化が進められているが、その進捗状況について問う。

また、来年4月から子ども・子育て支援新制度が始まり、障がいを持つ子どもなどの受け入れ先として、今後は公立保育所の役割というものがより重要になると考えるが、今後の保育所民営化の方針について問う。

現状では具体的な計画はない

答 保育所運営者選考委員会については、昨年4回開催して運営事業者を決定し、現在のアルバイト保育士の継続雇用や合同保育の実施による円滑な引き継ぎなどを協議し、調整しているところである。今の緑丘保育所をそのまま引き継ぎ、子どもたちに影響のないような形で進めたいと考えている。

また、今後の保育所の民営化については、現状では具体的な計画はないが、保育所のあり方を見直す場合には、そういった視点も必要ではないかと考える。

土木消防委員会

10月14日
開催

今後の下水道使用料の改定は

〈公共下水道事業会計〉

問 本市の下水道行政は低料金で非常に安定した環境整備を行っているが、今後の下水処理場の機能更新等を考慮した場合、さらなる下水道使用料の改定を判断することも行政の責任である。

そこで、適正な下水道行政を行うために、先行投資も含めた使用料改定を視野に入れるべきではないかと考えるが、本決算を踏まえた今後の使用料改定についての見解を問う。

許す限り現状を維持

答 昨年、上下水道事業経営審議会を開催し、その答申を受けて、下水道使用料の改定を行い、今後5年間は推移を見守ることとした。使用料改定については、今後の社会情勢を勘案する必要があるが、改定ありきの考えではなく、できる限り現在の使用料を維持しながら、事業費の中で削減できるものは削減し、企業努力を継続することにより、さらなる経営の健全

化に努めていきたい。

今後の清掃行政の方向性は

〈一般会計〉

問 ゴミ処理は安価で安全で継続的に提供でき、環境にやさしいことが大原則であるが、引き続き現状のゴミ収集体制を維持していくことは厳しい時代を迎えるのではないかと考える。

今後もきめ細やかなゴミ処理を行うためには、できる限り市民の負担を増やすことなく、安定したゴミ収集と処理設備の機能更新が望まれるが、クリーンセンターの改修や将来を踏まえた清掃行政の方向性を問う。

家庭用ゴミの削減を啓発

答 クリーンセンターについては、原則、新たに建設するのではなく、改修でどの程度対応できるのが課題になる。

改修によるクリーンセンター内の二酸化炭素の削減率が国からの補助金に影響を与えることから、交付割合が最大となる削減率20%を目標に設定することが可能か否か検討していきたい。

また、清掃行政における市職員

雇用や業務の委託化を図っていくなければならぬ。

また、家庭用ゴミの削減策として、商品を購入する市民に対し、包装の簡素化を促す意識改革を啓発することにより、一定の削減効果を期待しているところである。

五月山緑地の魅力を高める計画は

〈一般会計〉

問 平成25年度は五月山緑地整備事業として、ちびっこ広場に設置された大型複合遊具「忍者のとりで」をはじめとする整備を行った。

五月山動物園では40万人の来場者があったと聞き及んでいるが、今後、さらに五月山緑地の魅力を高め、にぎわいを創出するための計画について問う。

キャンプ施設の整備やトイレの建て替えを計画

答 緑楓台の長年使用されていなかった茶室を撤去し、既存のパーベキュー設備やベンチを活かし、キャンプができるような場所としての整備を行っていきたい。

さらには、ちびっこ広場のトイレの建て替えや五月山緑地一帯を花で飾るなど多数の来場者を誘致できる計画を今後も行っていきます。

やまばと

平素より議会活動へのご協力・ご支援に感謝申し上げます。昨年は豪雨や台風の影響で花火大会やがんがら火祭りが中止になるなど、自然の脅威を改めて認識させられました。また、日本創生会議から25年後の人口推計が発表され、896の市町村が消滅する可能性があるというショッキングな報告がありました。さらに、議員の政務活動費の取り扱いがクローズアップされました。

私ども市議会では、一貫して市民への「安全・安心」施策はもとより、活動の透明性や説明責任を追求してまいりました。厳しさを増す財政状況のなか、効率的な行政運営と市民参加の取り組みを今年も積極的に推進し、市議会だよりを通してわかり易く活動を伝えてまいります。本年もご愛読をお願いいたします。

市議会だより編集特別委員会

- 委員長 山元 建
- 副委員長 浜地慎一郎
- 委員 山口 勝平
- 委員 馬坂 哲平
- 委員 前田 敏
- 委員 松本 眞